

# 高田松原地区現場見学会を開催しました！

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

県では、東日本大震災津波により大きな被害を受けた陸前高田市高田松原地区において、防潮堤の復旧、砂浜の再生、気仙川水門の整備などを行っています。今回、これらの進捗状況を広く市民、県民に知っていただくことを目的に、8月6日に現場見学会を開催しました。

一般の方を対象とした現場見学会は、昨年10月、12月に続いて3回目です。当日は、快晴の下、78名の方々が参加し、高田松原地区で行われている各工事の進捗を確認しました。見学会後のアンケートでは、高田松原再生への期待や工事関係者への御礼などが寄せられました。

- 被災前のように陸前高田市民のみならず岩手県民全体に親しまれ、県民の誇りとなるような高田松原と砂浜の再生を願っております。(北上市 60歳代 男性)
- まだ海側には来られないという方もいますが、ぜひ地元の方が行きたいと思える場所になってほしいです。(陸前高田市 30歳代 女性)
- 私たちの街づくりにこんなに多くの方が携わり、試行錯誤しながら作業を進めていることに感動しました。私たちも頑張らないと・・・と強く思いました。(陸前高田市 50歳代 女性)

今後も、現場見学会等を通じて事業進捗の発信に努めていきます。  
見学会で説明した各事業の状況、見学会の様子は次のとおりです。

## 高田地区海岸災害復旧事業

高田地区海岸災害復旧事業では、防潮堤（第1線堤、第2線堤）、人工リーフ、浜田川水門等の復旧工事を行っています。第2線堤は、数十年から百数十年に発生が見込まれる津波に対応するT.P.+12.5mの高さで復旧を行っています。(T.P.±0m：東京湾平均海面)

見学会では、完成断面となった第2線堤に上り、広田湾と古川沼を眺めながら進捗状況の確認を行いました。また、昨年の見学会で参加者が想いを込めたメッセージブロックの紹介や、受注者が防潮堤のきれいな曲線を描くために試行錯誤した1/30スケールの模型の展示も行いました。模型に使用したブロックは、その役目を終えたので、見学会参加者にプレゼントしました。



第2線堤上で事業概要の説明を聞く参加者



1/30スケールの模型展示

## 高田地区海岸砂浜再生事業

震災前の高田松原は、約 17 万人（H22 入込客数）が訪れる県内でも有数の海水浴場でした。県では、震災により消失した砂浜の再生を目指して、人工的に砂を投入する養浜工による砂浜再生事業に取り組んでいます。

全国的にも珍しい大規模な養浜工となることから、昨年 11 月から延長 200m 区間で試験施工を行ってきました。見学会では、砂の投入が完了したばかりの砂浜を歩いてもらいました。参加者の皆さんは、砂浜に寄せる波の音を聞きながら、海水浴で遊んだ思い出話をしたり、砂の感触を確かめたりとそれぞれの時間を過ごされていました。



一般の方が初めて入った試験施工中の砂浜

## 気仙川災害復旧事業（気仙川水門）

震災後の気仙川災害復旧事業の検討にあたっては、堤防嵩上げと水門を工法比較した結果、景観・生活環境への影響、経済性などを総合的に判断し、水門方式を採用しました。現在は、右岸側の第 1 期工事が完了し、第 2 期工事に向けて左岸側の締切作業を行っています。

見学会では、水門管理橋の上で、水門の仕組みや設計上の工夫などの説明をしました。また、水門管理橋に参加者のメッセージを記載できるスペースを設けたところ、「津波に立ち向かって市内への浸入を防いでください」という水門への期待や、「鮭さん忘れずに帰ってきてね」など鮭の遡上を心待ちにするメッセージもありました。（メッセージは水門完成後も残りますが、舗装の下に隠れるため見えなくなります。）



管理橋の上から水門の仕組みを確認



子供たちも水門管理橋へメッセージ